

経営比較分析表（平成30年度決算）

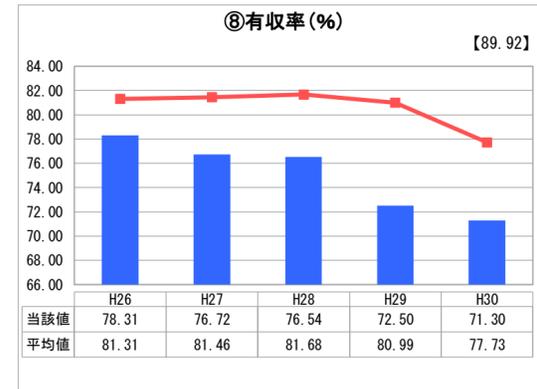
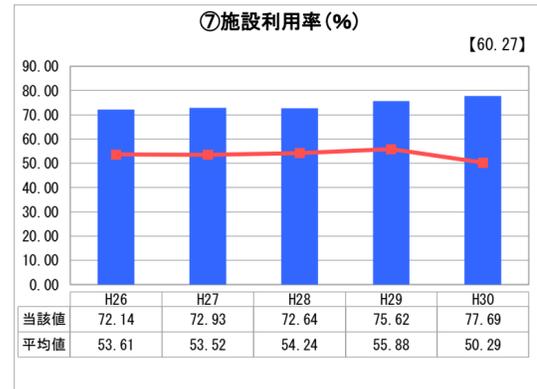
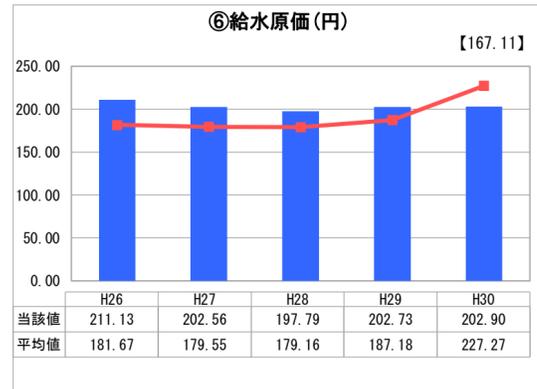
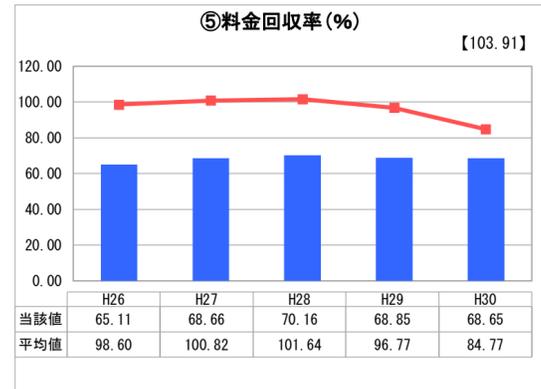
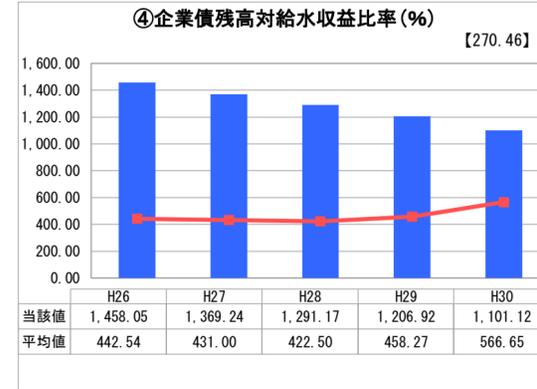
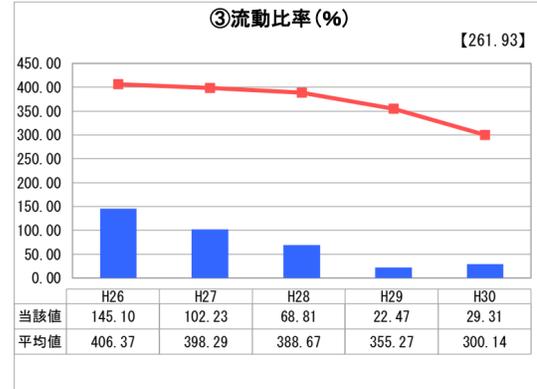
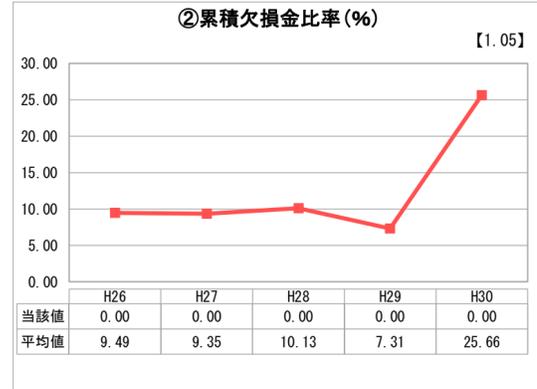
福井県 越前町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	40.68	46.49	2,800	

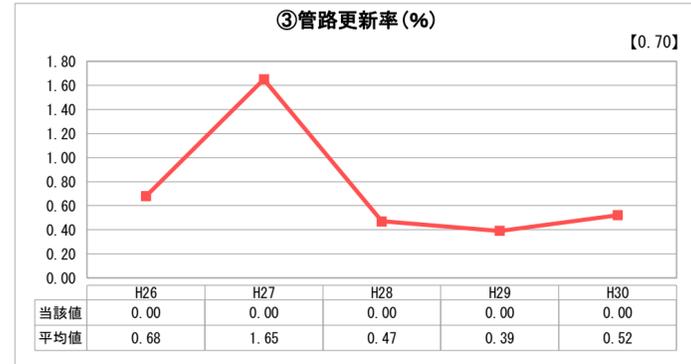
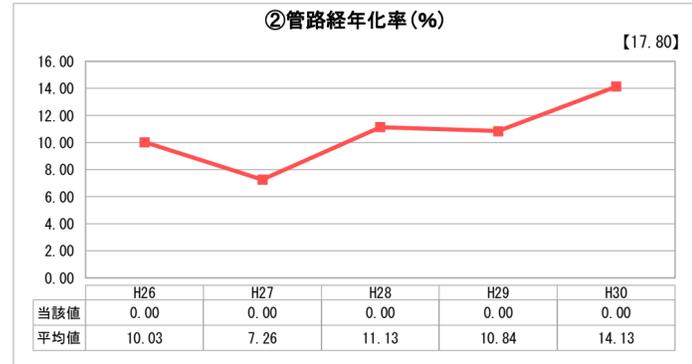
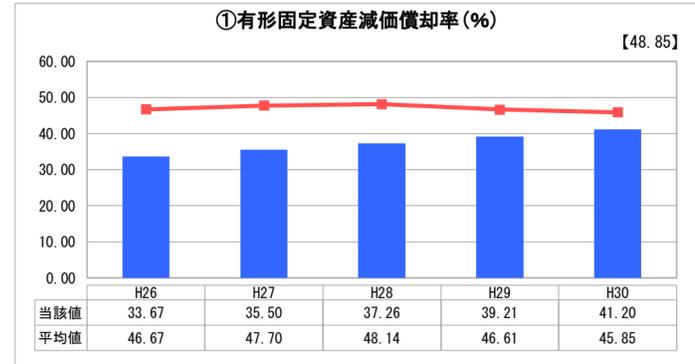
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
21,661	153.15	141.44
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
9,983	14.42	692.30

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、他会計負担金に依存しているため100%を上回っているが、③流動比率は平成26年度より減少傾向にある。また⑤料金回収率は約70%と低く、ここ近年は横ばいであるが、今後は、より適切な料金収入を確保する必要がある。

④ 企業債残高対給水収益比率から見ると、減少傾向ではあるが、類似団体平均の約2倍で推移している。

当町は平成17年の町村合併から上水道区域の統合を行い、事業は完了しているものの、今後も類似比率で推移していくものと考えられる。

⑥ 給水原価についても横ばいではあるが、平成30年度は類似団体平均を下回った。維持管理費の削減といった経営改善が必要である。

⑦ 施設利用率は高い水準で推移しているが、⑧の有収率は71%と低く、施設の稼働状況が収益に結びついていないため、今後は施設改善や漏水調査結果に伴う修繕を実施していく予定である。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は41%と類似団体平均を下回っているが、平成17年の町村合併に伴う上水道区域の統合事業を実施する際に、主要箇所管路布設替は行ったものの、古いものでは昭和50年代の下水道工事と同時埋設した管路が残っているため、漏水調査結果に基づく漏水修繕を実施する必要がある。

また、浄水・配水施設については、平成8年度より実施した朝日地区簡易水道統合事業による再整備から22年以上が経過しているため、早急に老朽化対策を行う必要がある。

全体総括

当町の給水率は99%を超えているが、平成17年町村合併から13年が経過した現在、施設の老朽化や人口の減少等を踏まえ、自主財源の確保や効率の良い事業運営が必要とされている。

今後は、長期的視野に基づき、計画的に上水道事業区域の料金改定等の施策を実施していく必要がある。